

～ 令和3年度 都立高校入試の平均点を振り返る ～

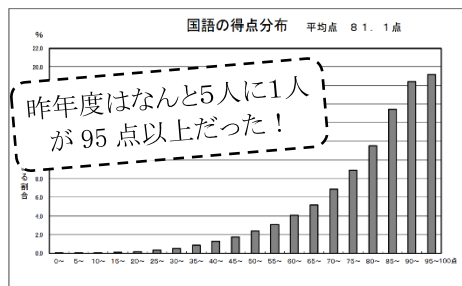
6月下旬に、東京都教育委員会から『令和3年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査』が発表されました。下表の教科別平均点をご覧ください。平均点の大きな(5点差以上の)変動は、国語の-8.6点、数学の-7.8点、理科の-5.6点でした。

教科別平均点

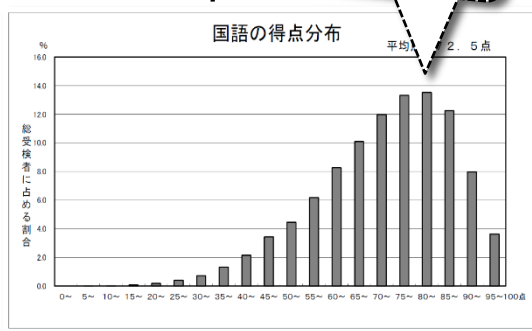
教科	国語	数学	英語	社会	理科
令和3年度	72.5点	53.3点	54.1点	54.6点	47.8点
令和2年度	(81.1点)	(61.1点)	(54.7点)	(57.0点)	(53.4点)

【国語】

昨年度は過去18年間を見ても一番高い平均点でした。今年度はその反動でやや難化し平均点が下がったと思われます。得点分布のピークも昨年度の95～100点から80～84点に移りやや落ち着いた分布となりました。



< 令和2年度 >



<< 令和3年度 >>

設問別でみると全体的に下がってはいますが、特に大問2と大問5の正答率が下がっています。大問2は漢字の書きとりです。これは日々コツコツ準備しておくしかありません。大問5は古文の鑑賞ですが、古文というより鑑賞文の読解で解釈を間違えていたり正確に理解できていなかったりで誤答していた人が多いようです。単に似たワードで選択肢を選ぶのではなく、日頃から根拠を持って選ぶ問題演習が必要です。

やや難化したと先ほど書きましたが、昨年度が簡単だったというだけで、決して難易度が

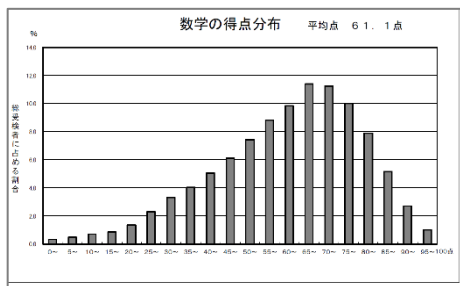
上がったというわけではありません。引き続き易しい問題の出題が続いているとみるべきです。実際、過去18年間を見ても平均点が70点以上になったのは4回※だけです。

(※4回は 2016年/2019年/2020年/2021年)

もしかしたら来年度ももう少し難化するかもしれませんね。

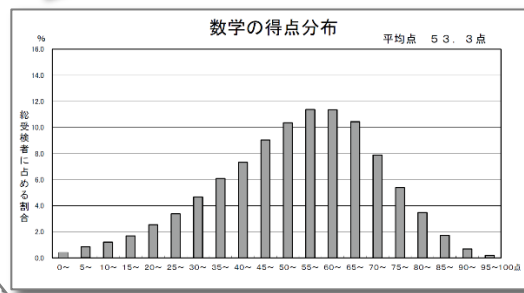
【数学】

得点分布は下表の通りです。



< 令和2年度 >

昨年度ピーク: 65~69点から
今年度ピーク: 55~59点へ



<< 令和3年度 >>

設問別では大問3以外全体的に下がっていました。大問1は国語の漢字同様、日々コツコツやっていくしかありません。四則計算や約分など基本中の基本をおろそかにしないようにしましょう。大問2ではなんと受験者の約60%が無答でした。正方形のタイルを並べ面積を考える問題でしたが、根拠を示せなかったり説明の見通しが立てられなかったりしたようです。大問4は円と二等辺三角形の問題でしたが、相似や合同をしっかりと見抜きそれを組み合わせられたかどうかで正誤の分かれ道となったように感じました。

【まとめ】

今回は国語と数学に絞りましたが、すべての教科において日々の努力が肝心です。『ちりも積もれば山となる』ということです。中3生は2月まであと約半年。不安な人はすぐ相談してもらいたと思います。



右のイラストはよくあるイラストで、努力の差を表しています。上の方は勢いよく掘っていますが、下の方はお宝の手前であきらめてしまっています。もう少し頑張れば…と思いたくなりますよね。実は勉強も同じです。努力は必ず結果として現れます。また成功する人は努力の過程も楽しんでいることがほとんどです。単に覚えるのではなく『へ～なるほど!』と少しでも感じながら学習すると楽しく成長できると思いますよ。